

筆のついでに

野間　と　よ

この「幼児の教育」が三十卷に達しました事を御祝ひ申上げ尙將來一層の發展を切望いたします。

筆の序に——前かたお茶の水高等女學校の父兄會に出席しまして生徒の成績品を見ました時、先づ目につきましたのは果物の水彩畫でありました、此繪は素人の私には實に立派なもので女學校程度でようもこんなにかけるものとたいへん感心して暫く見とれました、フト名前を見ましたら其れは私が曾て幼稚園で世話をした子供のそれでありました、私は二度びつくりして改めて其繪を見つめました、幼稚園にゐた時頭からすぐに手や足の出てゐる人を畫いて得意になつてゐたあのオカッパさんの小さい子供がどうしてこんな繪を畫く

様になつたのかしらん、子供が發達するは當然の事で何の不思議もありませんがそれでも私には實に不思議でなりませんでした、いくら考へてもあの子がこの繪を畫いたとは思はれませんでした、そして急にその子に逢つて褒めて上げたくなりました、暫くいろ／＼の思出に耽りながら次から次へと見て參りますとなつかしい名前の數々、何れも實に立派な繪を畫いてをります、本當にどうしてこんなに畫けるやうになつたのでせう。習字の成績を見ましても實に立派なのがあります。これが幼稚園時代畫き方の中に文字だか繪だか分らない様な字、左文字などを書いて喜んでゐた人達の筆であるとは思ひもよらぬ事であります。裁縫・お

細工物に於てもたゞ其發達に驚くばかりで自分が恥かしくなりました。もしも私が此人達を幼稚園から女學校まで引つゞいて受持つてゐたとすれば此發達は餘り際立つては氣付かなかつたかも知れませんが何しろ振分髪の時しか記憶に残らぬ私が此成績を見ては何としても驚かすには居られませんが。喜ばずには居られません、教育といふものゝ有難さが沁々と味はれます。

或日立派な若い紳士の訪問を受けました。「先生僕今年大學を卒業しました。近い内には大阪へ赴任いたします」と、幼な顔はあり／＼と其儘です。まあよくもこんなになつて呉れた、よくも此邊鄙まで訪ねて來て呉れた、と涙ぐまずにはゐられません。此人は私が初めて三年間手鹽にかけた丸々と肥つた實に無邪氣な子供らしい子供でした。いつの間にこんなに大きく立派になつたのでせう。學生時代は餘り音信はありませんでしたが、卒業

したと云つて態々訪ねて來て呉れました。年賀狀は必ずよこして呉れます。幼い頭に映つた私を十七年も八年も忘れずにゐて呉れたかと其れ丈けても骨折甲斐があります。

幼い人達はかく知らぬ間に時々刻々と發達して止みません、私は此多くの人々が心身最も健かに生い立ち多年の學生々活に勵み、終へては社會の一員として正しく強く其一步一步を踏み締め、決して再び繰り返されぬ各自の歴史を最も清く美しき綫に織りなして、倦まず撓まず進まれん事を切望してやみません。

之と同時に其發達の基礎となる家庭教育、幼稚園教育の大切な事、其力の偉大なる事は今更申す迄もありません、又之等に従事する者の骨折苦心は凡ての他の教育事業と同じく一通りや二通りではありません、然し其内に希望はあり、喜びはあり、尊さはあります。御互様に大に努力させよう。